

### Ⅲ 水産海洋研究会 昭和41年度秋季シンポジウム

主催 水産海洋研究会

主 題 水産における海洋観測の意義とその利用

日 時 昭和41年11月7日午前10時～午後5時30分

場 所 東海区水産研究所第1会議室

コンピナー 平野敏行（東海区水産研究所）

#### 話題および話題提供者

水産試験研究機関の観測網について	上原 進（東海区水産研究所）
大学関係の海洋観測について	斎藤泰一、大塚一志（東京水産大学）
水産における海洋観測の歴史的展望と諸外国の現状	宇田道隆（東京水産大学）
航空機利用の観測について	黒田隆哉（東北区水産研究所）
観測法の再検討	寺本俊彦（東京大学海洋研究所）
生物調査の方法	丸茂隆三（東京大学海洋研究所）
観測実施分担者としての意見	渡辺福松（千葉県水産試験場）
利用者側としての意見	堀内吟三（全国漁業組合連合会）
行政からの期待	安枝俊雄（水産庁調査研究部）
総 合 討 論	

なお、佐藤忠勇氏（養殖研究所）から「1966年夏期志摩沿岸に現われた異常海況と養殖真珠の被害」の話題提供が特別にあつた。又、松平康男広島大学教授からは、特別にお願いして、「水産海洋の在り方についての私見」を寄稿していただいた。ここに感謝の意を表する。（コンピナー）

#### 1 水産試験研究機関の観測網について

上原 進（東海区水産研究所）

##### 1) 水産研究所における海洋調査

戦前、水産関係でおこなわれてきた海洋調査の経緯については、後ほど、宇田先生からくわしい御紹介があると思うので、ここでは、戦後の海洋観測ということで話を進めてみたい。戦後しばらくは、すべての分野の仕事がそうであつたように、水産研究においても、とく